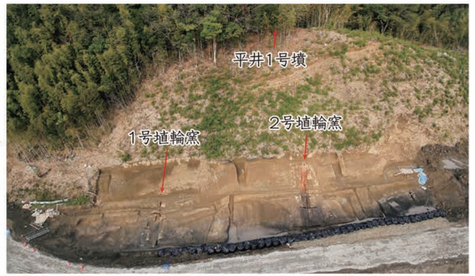
平井遺跡
古墳時代の埴輪窯

古墳時代から戦国時代の平井周辺文化財マップ

総光寺由来井太田城水責図

平井周辺遺跡めぐりマップ

平井遺跡・平井II遺跡の発掘調査



平井遺跡

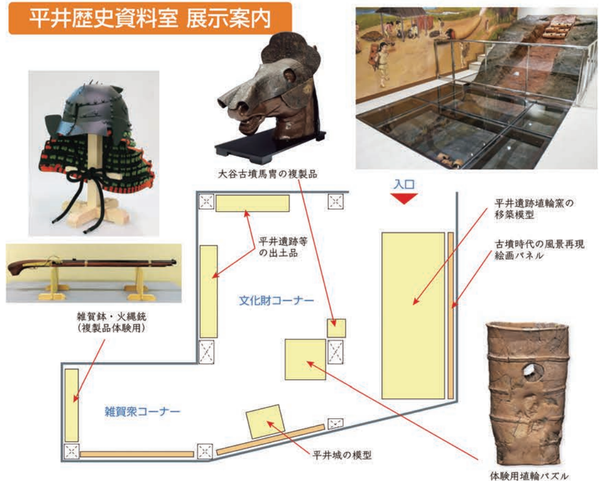
平井遺跡は、紀の川の河口に広がる平野の北側で、和泉山脈のふもとにあります。和歌山県内でも貴重な、古墳時代（約1500年前）の埴輪窯をはじめ、様々な時代の人々の生活の跡がみつかっています。

埴輪窯は２基見つかり、天井は残っていませんでしたが、窯の中には、赤く焼けた床面が残っていました。床面は一番新しい面から下に何面も重なっており、くり返し何回も、たくさんの埴輪が焼かれたようです。

平井遺跡の埴輪窯で作られた埴輪は、すぐ北にある平井１号墳や、東にある大谷古墳などに運ばれました。埴輪の生産から供給先までがよくわかる、貴重な事例です。

制作協力：令和2年度和歌山市立和歌山高等学校 デザイン表現科2年生17名

平井歴史資料室 展示案内



平井歴史資料室（和歌山市平井ふれあいセンター内）

〒640-8442 和歌山市平井 72 番地の１
電話（073）488-9111
FAX（073）488-9110

【休 室 日】日曜日、祝日、12 月 29 日から１月３日
【開室時間】午前９時から午後５時まで

交通のご案内

電車で
- 南海電鉄 紀ノ川駅下車。徒歩約12分

バスで
- JR和歌山駅　鳴滝団地ゆき　橋見小学校前バス停で下車。和歌山大学前駅西口ゆきに乗り換え。平井バス停で下車。徒歩約７分
- 南海和歌山市駅　川永団地ゆき　平井バス停で下車。徒歩約７分

お車で
- 阪和自動車道　和歌山北IC（大阪方面からのみ）から約10分
- 阪和自動車道　和歌山ICから約15分

文化庁
令和2年度「国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金（和歌山市内埋蔵文化財地域の特色ある埋蔵文化財活用事業）」の補助金を受けて作成しています。

発行　和歌山市 文化振興課
〒640-8511　和歌山市七番丁 23 番地
TEL073-435-1194　FAX073-435-1294
令和３（2021）年３月発行
印刷：株式会社ウイング

紀の川下流域遺跡めぐりマップ

和歌山の戦国時代（信長、秀吉の紀州攻め）

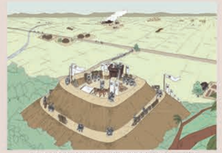
戦国時代の和歌山平野では、有力な大名の勢力が及ばず、惣国とよばれる土豪の連合体の自治組織がありました。その代表が雑賀衆で、いち早く鉄砲を取り入れて武装を強化し、紀州だけでなく各地の戦に参加するほどでした。

天正４年(1576)5月、畿内に勢力を拡大していた織田信長が、大坂の本願寺を攻撃しました。7月には雑賀衆は、毛利水軍などとともに本願寺方の主力部隊として活躍しました。翌天正５年(1577)、信長は雑賀攻めの軍を発しました。信長軍の強大な軍事力の前に、抵抗して戦うも、雑賀衆の拠点の一つであった中野城も開城し、鈴木孫一以下雑賀衆の指導者らが信長に降伏しました。合戦終了後の天正8年(1580)、本願寺の指導者、顕如が一時、大坂を退去し鷺ノ森に移ります。

本能寺の変で信長が倒れた後、実権を握った羽柴(後の豊臣)秀吉が、天正13年(1585)、紀州攻めに出陣しました。秀吉軍の圧倒的な力で、根来寺をはじめ瞬く間に紀州は平定されていき、抵抗勢力が最後の砦としたのが、太田城です。秀吉軍はこれを水攻めにより降伏させました。この紀州攻めにより、紀州の中世的な社会体制は終わりをむかえ、新しい時代へとむかうことになります。

城山遺跡・中野遺跡

城山遺跡は、信長、秀吉やその家臣により築かれた合戦時の陣城の特徴をもち、紀州攻めの際、攻め手の拠点の一つとなっていたようです。この南東約1.6kmには、信長軍に攻められたという中野城(中野遺跡)跡があります。城山遺跡からは、鉄砲玉の原料となる鉛が、中野遺跡からは火縄銃の鉄砲玉が見つかりました。


戦国時代の城山・中野遺跡(イメージ)

太田城水攻め堤跡

秀吉が水攻めを行った太田城跡の北東に、秀吉が築いた堤とされる土盛りがあります。発掘調査により、実際に秀吉の時代のものとわかり、その構築方法も明らかになりました。まず堤の基準となる山をつくり、その後ろに盛り土を足していく工法は、江戸時代初期の和歌山城三の丸の外堀の土塁とも共通するものでした。

太田城水攻め堤跡の発掘調査

鷺ノ森遺跡

現在の本願寺鷺森別院の南側の発掘調査では、16世紀後半、信長と交戦した本願寺の浄土真宗門主である顕如が、大坂本願寺から鷺ノ森御坊に退去した時期の痕跡が見つかりました。幅16.8mもの大きな堀と土塁を厳重にめぐらせ、寺内には井楼矢倉という見張り台の建物跡があり、当時の情勢をうかがうことができます。

鷺ノ森遺跡の発掘調査(堀跡)

和歌山の古墳時代

古墳時代は、大和政権を中心として国のまとまりができた時代です。各地の豪族が、権力を示すために古墳を築き、豪華な品物をそなえ、そのまわりに埴輪を並べ立てました。古墳時代は前期(３世紀後半～４世紀)・中期(５世紀)・後期(６世紀)と区分されますが、和歌山では、古墳時代のはじまりの前期の大きな古墳はごくわずかです。

古墳時代の中期には、朝鮮半島などから多くの人や物が、海をこえて日本列島にやってきました。馬の乗り方、窯で固い器を焼く方法、鉄を大量につくる方法などの新しい技術が伝えられて社会が発展し、生活の様子も変わりました。この時代に和歌山も大きく発展します。

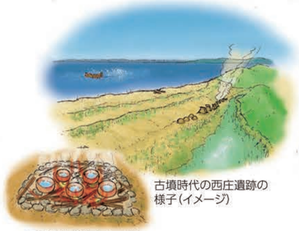
平井遺跡がある紀の川の北岸は、古墳時代の中期(５世紀)から後期(６世紀)にかけて、海や川の交通が盛んでした。車駕之古址古墳の金製勾玉や大谷古墳の馬冑は、渡来文化を物語る大変めずらしく貴重なものです。窯で硬い器を焼く技術が各地に広がると、埴輪も窯で焼くようになります。平井遺跡の埴輪窯は、この時代に使われました。

古墳時代後期(６世紀)になると、紀の川南岸の岩橋千塚古墳群で、大日山35号墳を中心に大きな古墳が立て続けに造られるようになります。そして岩橋型とよばれる独特な横穴式石室や、他ではみられない飛ぶ鳥の埴輪など、独自の古墳文化が発展します。やがて大きな古墳が造られなくなり、埴輪の時代もおわります。

車駕之古址古墳の全景

海辺の塩作り・西庄遺跡

西庄遺跡は、海辺の砂洲にある塩作りの遺跡です。石敷きの炉の上で、お椀の形の土器で海水を煮つめて塩を作り、作った塩は各地に運ばれました。


古墳時代の西庄遺跡の様子(イメージ)

石敷製塩炉(イメージ)

県内最大級の前方後円墳・車駕之古址古墳

和歌山の古墳時代中期(５世紀)を代表する古墳として、木ノ本に車駕之古址古墳・釜山古墳・茶臼山古墳と、大きな３つの古墳が並んでいます。車駕之古址古墳からは、大変貴重な金製の勾玉が発見されました。

金製勾玉

古墳時代の車駕之古址古墳の様子(イメージ)

馬冑がみつかった大谷古墳

大谷古墳は、紀の川を見下ろす小高い山の上にある前方後円墳です。古墳の頂上におさめられた石棺の近くからは、馬の冑やよろい、金メッキの豪華な模様がある馬の飾りなどが発見されました。

それらは国指定の重要文化財になっています。

大谷古墳の馬冑とよろい

めずらしい初期の須恵器の発見・楠見遺跡

窯で焼いた固い器「須恵器」が、楠見遺跡から数多くみつかりました。須恵器を作る技術が伝わったばかりの初期のもので、作られた数が少なく、限られた場所でしか見つかっていません。

楠見遺跡の初期須恵器

紀の川北岸の代表的な石室・園部円山古墳

園部円山古墳は、平井遺跡の横穴式石室より少し前の時期、平井遺跡より北東の山の中腹に造られた古墳です。須恵器、耳環のほかに、和歌山では数少ない、豪華な金メッキの飾りがある太刀と、馬の飾りが発見されています。

園部円山古墳の馬具と太刀の柄

特別史跡・岩橋千塚古墳群

紀の川の南側には、岩橋千塚古墳群があり、大日山周辺の山なみ全体に約850基もの古墳が集まっています。一番大きな大日山35号墳からは、和歌山独特の特徴をもつ、数多くの埴輪が発見されました。

大日山 35 号墳から見つかった埴輪の集合